

『サイバー自習室・フリースタイル』が独習者にもたらす サードプレイスとしての役割

“Freestyle (Cyber Self-Study Room)” provides a role as third place for self-learners

高橋操, 中野裕司
Misao Takahashi, Hiroshi Nakano
熊本大学
Kumamoto University

<あらまし> 「人生 100 年時代」を見据え、世代や社会的立場に捉われず学び続ける場、すなわちサードプレイスが求められている。『サイバー自習室』とは、多様な独習者がオンライン上に集い、学ぶタイミングを同期させながら、各自の独習目標の達成を目指す独習支援システムである。本稿では、「サイバー自習室・フリースタイル」の利点、検討すべき点について4名の独習者へインタビューを行った。その回答より「サイバー自習室」がサードプレイスとして機能することを確認したとともにその理由を検討した。

<キーワード> サイバー自習室, サードプレイス, 独習, Pomodoro Technique, Co-presence, 緩やかな連帯感

1 はじめに

「人生 100 年時代」の到来を見据え、長きに渡る一生をより豊かで幸福に満ちたものにするには、年代や社会的立場に捉われない、持続的学びが不可欠である。それとともに、学ぶ意欲を高め、多様な学習目標達成を後押しする「サードプレイス」としての学習環境が必須であろう。このような環境実現の一助とし、高等教育をはじめ教育現場を対象に『サイバー自習室』を実施している(高橋ほか 2023)。『サイバー自習室』の独習支援システムとしての基本設計は、2019~21 年に 3 回にわたり実施した形成的評価(高橋ほか 2022)の検証を踏まえ構築されており、現在も『フリースタイル』のネーミングで、主に社会人独習者により活用されている。これは、独習したいフリーなタイミングに『サイバー自習室』で共に学ぶ独習仲間を募るスタイルのもので、本稿では、この『サイバー自習室・フリースタイル』が独習者にもたらす「サードプレイス」の役割について報告する。

2 サイバー自習室「フリースタイル」とは

『サイバー自習室』とは、独習者がそれぞれの独習タスクを持ち寄って Zoom 上に集い、画面共有されたタイマーに従って、独習ペースを同期さ

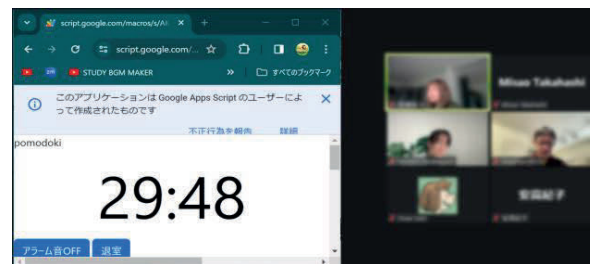


図 1「サイバー自習室」独習風景

せながら、各自の学習目標達成を共に目指す独習支援システムである(図1)。「ポモドキ」は「Pomodoro Technique」を応用させた時間管理であり、ポモドーロ 25 分より長い「55 分の独習と 5 分の休憩」を 1 セットとする「1 ポモドキ」を繰り返すもので、形成的評価で試行後、活用を進めている。「フリースタイル」とは、独習者が独習したいタイミングに『サイバー自習室』主催者となり、自由に開室できる形式である。主催者は自身のタスク達成に要する「ポモドキ(あるいはポモドーロ)」を設定の上、専用の Slack から共に学ぶ仲間を募る呼びかけを行う。主催者は、タイマー管理のほか、「ポモドキ」の 5 分休憩や、今日の独習を振り返る閉室前の「シェア時間」に独習者同士の交流を深める進行役も担う。「フリースタイル」は形成的評価協力者らより開室継続の声を受け 2021 年 11 月から開始。2024 年 1 月現

在で 507 回（ポモドーロ 356 セット、ポモドキ 153 セット）開室、1 回あたり平均 2.6 時間実施した。各回の参加者は主催者を除き 0～5 名程度であった。

3 社会人独習者に対するインタビューの結果

社会人独習者 4 名に対し『サイバー自習室』に関するインタビューを行った結果（表 1）、全員が「フリースタイル」に肯定的であった。

表 1 より、「ポモドキ」の 5 分休憩やシェア時間をはじめとする独習者同士の関わり合いのなか、互いの独習を見守り応援し合う成長の場として『サイバー自習室』は機能し、そのサードプレイスとしての価値を独習者が認めている。この 4 名の職業は、ソフトウェアエンジニア、公務員、大学教員 2 名というように異なっている。

これらのことより、『サイバー自習室』が「サードプレイス」としての役割を高めている理由を以下、3 つ考えた。

- ① 多様な立場にある人々の集いなので、達成のプロセスで「競争」が生まれず、周囲の状況に気を散らさず安心して自分のペースを確保できる。
- ② 独習者同士は「目の前のタスクを何とかやり遂げたい」という同じ思いを抱えながら、「ポモドキ」を数セットにわたり共有する。長い独習時間を共に過ごす中で連帯感、信頼感が醸成される。
- ③ カメラビュー越しに、他の独習者が勉強している姿（気配）を感じることで、集中力が維持され学習意欲が高まる。

4 課題と今後の展望

現在、「サイバー自習室」の WEB アプリケーション開発に取り組んでいる。インタビューで独習者 B 及び C が検討すべき点として挙げた「開室主催のハードル」や「オンライン接続の時間制限」などの課題は WEB アプリ完成によって解消される予定である。また、独習者 A 及び D による「ドリームキラーをいれない」といった開発者が設ける独習者の参加基準などのコミュニティ運営方針の発信については、『サイバー自習室』が「人生 100 年時代」における学び合いの場として「サードプ

表 1 独習者へのインタビュー（利点/検討すべき点）

	利点	検討すべき点
独習者 A	<ul style="list-style-type: none"> ●他の学習コミュニティと異なる点として、多様な分野の独習者が互いに応援し合う「繋がり強さと緩やかさ」が特徴的と言える。 ●各自がタスクに取り組む姿を真正面からでなく（介入し過ぎず）、『横目で励ます』といった緩やかな連帯の中で、学ぶ時間を共有し積み重ねることが信頼関係を醸成し安心の雰囲気の中、やるべきことに取り組める。 	開発者が独習者の新メンバー加入について一定のモラル基準を設けている点は、参加者としては安心である一方、そのプロセスを経ることで『サイバー自習室』活用の広がりが緩慢になるのではないかと
独習者 B	<ul style="list-style-type: none"> ●サイバー自習室にサインインすると、やらないといけないことをやっている人がいるので、自分もその気になって捗る ●個々の学習タスクによっては、システム改良に関する要望があるかもしれないが、どのような独習にも応じられる設計のシンプルさがあり、“丁度良い”仕様になっている 	『サイバー自習室』開室の主催は、（開室の告知、ポモドーロタイマーの管理、休憩時間の声掛けなど）色々と準備を要するためハードルが高い。
独習者 C	<ul style="list-style-type: none"> ●職場と家庭の間に存在する「オンライン上のサードプレイス」 ●開室時間の設定があるので、独習の予定が立てやすい。加えて、シェアの時間に自分の取り組みに対しフィードバックを受けられる。他の人が独習内容をシェアしてくれるなどの交流から視野が広がったり、学習目標の見直しが見える。 	早朝の時間帯などに、『サイバー自習室』で独習したくても、Zoom 有償アカウントを持っていないため、Zoom40 分制限がネックになり開室することができない。
独習者 D	<ul style="list-style-type: none"> ●「独習」とは、コツコツと「孤独」のうちに学ぶという概念が塗り替えられた。 ●サイバー自習室における「独習」の「独」は「孤独」を示すものではなく、オンライン上に集い、互いを見守り応援し合う関係を築きながらも、馴れ合うことなく、各自で異なる目標の達成を、各自の計画のもと目指すといった主旨の「独立性」を示した「独」であると感じた。 	「ドリームキラーは参加させない」など、開発者が円滑なコミュニティ運営において意識しているポイントについて、示してはどうか。

レイス」の役割をさらに拡大するために、その方法を検討する。

参考文献

高橋ほか（2022）Co-presence と Pomodoro Technique を活用し独習を支援する『サイバー自習室』の開発と評価. 第 41 回 JSET 秋季全国大会講演論文集 177-178

高橋ほか（2023）大学ゼミにおける『サイバー自習室』実施報告. 第 43 回 JSET 秋季全国大会講演論文集 35-36

『サイバー自習室』体験会へのご参加・ご質問はコチラより



◆『サイバー自習室』ホームページ

<https://sites.google.com/view/cyberselflearning>